

# 湿害に強い新しい台木「Bounty」の特性

## 水田転換園でキウイフルーツの健全な生育を目指して

### 苗の湛水試験

供試系統 Bounty挿し木苗  
〔2021年7月にミスト下で緑枝挿しをし、8月30日にビニルポットへ移植〕

府中(シマサルナシ)の交雑実生苗  
〔2020年の交配種子を2021年5月下旬にセルトレーに播種し、7月下旬にビニルポットへ移植〕

湛水期間 2021年9月21日～10月21日

試験方法 プラスチックコンテナ内に個体を置き、水が用土表面まで浸かるように適宜水を足して水位を保持



1か月後の状況



Bounty



シマサルナシ(府中×EAR1)

表1 湛水試験後の落葉率、枯死率、根の乾物重

系統名・交配組合せ		落葉率 (%)	枯死率 (%)	根の乾物重 (g)
Bounty		16.0	0	0.26
府中	× 中村B(シマサルナシ)	76.3	30	0.17
府中	× EAR1(シマサルナシ)	39.0	0	0.30
府中	× EMC5(中国系2倍体)	81.0	20	0.38
府中	× EMC6(中国系4倍体)	48.5	0	0.08

### 水田転換園での現地試験



バウンティ台ハイワードを2021年3月定植

ハイワード定植3年目(2018年)に豪雨・乾燥により枯死

2021年は5月12日頃に梅雨入りし、5月の降水量がかなり多く、8月も台風の影響で降水量が多かったが、**Bountyのみ枯死しなかった**

表2 定植1年目の生育状況 (2021年12月)

台木の種類	主枝長 (cm)	枯死率 (%)
Bounty	189	0
シマサルナシ	129	60.0
慣行	146	81.8

・**Bounty**は、湛水条件下でも落葉が少なく、根の異常もみられなかったことから、**湿害に強い**と考えられる。また、穂品種(ハイワード)接ぎ木後もその特性は維持されると考えられる。

・**シマサルナシの交雑実生**は、湛水処理後の根は褐変し、衰弱しているものが多かった。

# 「ハイワード」における大苗育苗の活用

## 大苗による早期成園化を目指して

### 定植時の状況(2020年3月、各区5樹定植)

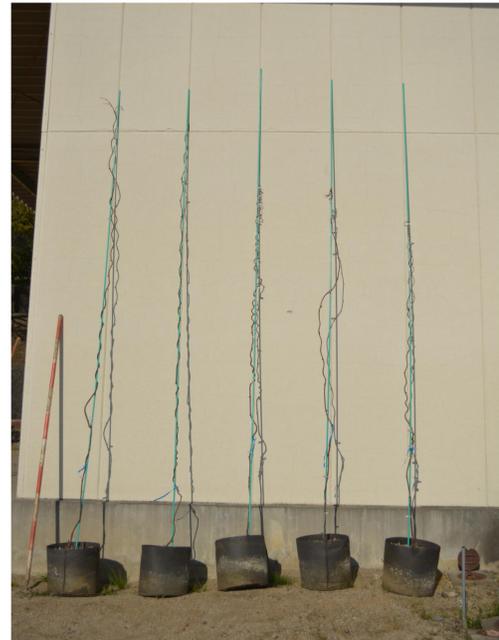
大苗区:共台に穂品種を根接ぎし、1年間25ℓのポットで育成



対照区:購入した1年生苗(慣行台)



大苗の育成状況(棚面の高さに切り戻し定植)



### 初期生育、収量、果実品質

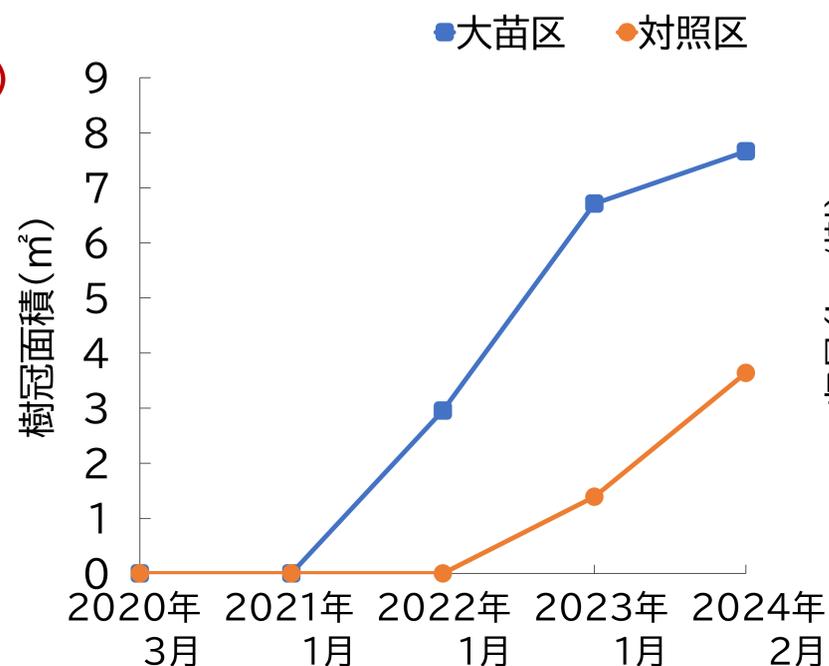


図1 樹冠面積の推移  
※大苗区(n=5)、対照区(n=3)

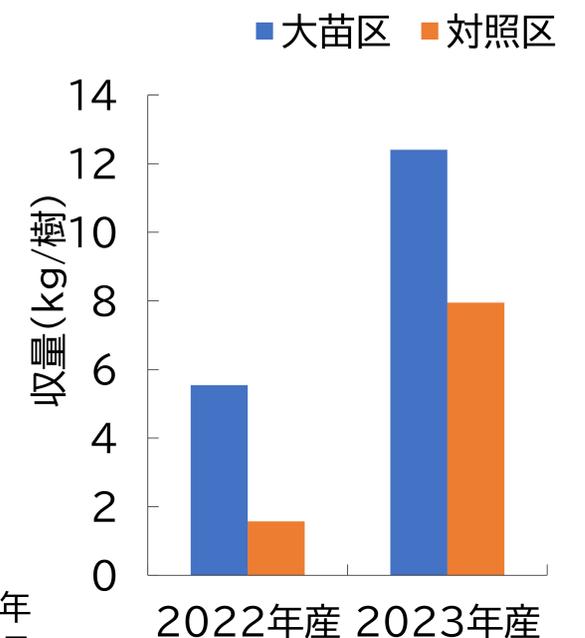


図2 収量の推移  
※大苗区(n=5)、対照区(n=3)

表1 大苗育苗が苗の生育に及ぼす影響(2020年3月24日)

試験区	枝長(cm)	幹周(cm)	根の乾物重(g)		
			2mm以下	2mm以上	合計
大苗区	294.8	2.7	35.4	3.3	38.7
対照区	-	3.2	17.4	11.0	28.5

※n=5

表2 追熟果の果実品質(2023年10月28日収穫)

処理区	果実重(g)	果実の大きさ(mm)			果肉硬度(kg)	糖度(°Brix)	酸含量(g/100ml)
		縦径	横長径	横短径			
大苗区	87.2	62.8	50.0	43.9	1.83	16.1	0.47
対照区	98.4	64.8	52.0	45.6	1.88	16.6	0.36

※大苗区(n=5)、対照区(n=2)

- ・大苗区は、定植時の**根量が多く**、初期生育も良好であった。
- ・2023年産果実は、大苗区で小さい傾向にあった。大苗区は、樹冠拡大が良好であったため、2022年に全ての樹で初収穫を行ったが、一部の樹で着果負担がかかり、2023年は小玉傾向となった。
- ・大苗区は健全に生育しているのに対して、**対照区は3樹枯死**した(2024年9月時点、根腐病発病園)。